

2023年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 執行役 COO ナチョ・アビア | 2022年8月9日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2023年3月期 第1四半期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。
- 私から2023年3月期 第1四半期の連結決算概況および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第1四半期実績

- ☑ 期初時点で懸念材料とした複数のリスクを最少化し、売上高・営業利益を伸長
 - 売上高：連結で+12%成長。医療分野は第1四半期として過去最高の売上高内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
 - 営業利益：第1四半期の営業利益は、額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

- ☑ 期初の見通しから為替を除いて据え置き。為替前提の見直しにより、売上高およびすべての段階利益を上方修正
 - 売上高：前回見通しから5%増の1兆190億円、医療分野は過去最高となる見込み
 - 営業利益：経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む
 - 当期利益**：過去最高の1,720億円、EPSは前期比50%増の135円となる見通し

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

(スライド3)

- 2023年3月期 第1四半期決算における主なポイントです。
- 売上高は連結で12%の増加です。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成し、医療分野は第1四半期として過去最高の売上高となりました。
- 営業利益は、第1四半期として、額・率ともに過去最高となりました。
- EPSは20円、EPS成長率は34%でした。
- 期初での懸念材料としたいくつかのリスクについては最少化など対策も講じ、想定内に収めた上で成長を取り込むことができました。
- 続いて通期業績見通しです。5月にお示した見通しに、為替前提を見直しました。
- 売上高およびすべての段階利益を上方修正しています。
- 売上高は、前回見通しから5%増の1兆190億円、医療分野は過去最高となる見通しです。
- 経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を達成する見通しです。
- 当期利益も過去最高の1,720億円、EPSは135円、EPS成長率は50%となる見通しです。
- 引き続き、事業環境変化に伴う各種リスクを抑制しながらの運営が前提となります。

01

2023年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2023年3月期 第1四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2023年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

- ☑ 連結業績概況：売上高は連結で+12%成長、営業利益は額・率ともに過去最高*
- ☑ 社内計画比：上海ロックダウンなど市場環境は厳しかったものの、期初に織り込み済みであり、第1四半期として概ね計画通りの進捗

第1四半期実績（4-6月）

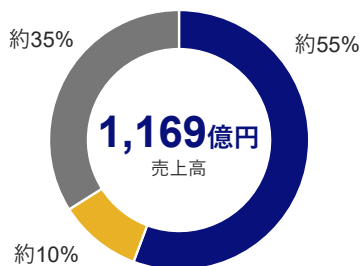
(単位：億円)	FY2022	FY2023	FY2022比	為替除きFY2022比
売上高	1,915	2,141	+12%	0%
売上総利益 (売上総利益率)	1,233 (64.4%)	1,372 (64.1%)	+11%	▲2%
販管費 (販管費率)	958 (50.0%)	1,089 (50.9%)	+14%	+5%
その他の損益など	1	125	-	-
営業利益 (営業利益率)	276 (14.4%)	408 (19.1%)	+48%	+18%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	276 (14.4%)	283 (13.2%)	+3%	
税引前利益 (税引前利益率)	270 (14.1%)	382 (17.9%)	+42%	
当期利益** (当期利益率)	187 (9.8%)	249 (11.6%)	+33%	
EPS	15円	20円		
円/USドル	109円	130円		
円/Euro	132円	138円		
円/CNY	17円	20円		

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から
**親会社の所有者に帰属する当期利益

(スライド5)

- まず、連結業績の概況です。
- 連結売上高は、2,141億円です。連結で12%の成長となり、医療分野は第1四半期として過去最高の売上高となりました。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成しました。上海ロックダウンの影響を受けた中国での大幅な減少、半導体等部品不足による出荷遅延などもありましたが、中国以外の地域・新製品などの成長が大きく貢献しました。
- 売上総利益は1,372億円です。売上総利益率は若干前年を下回りました。上海ロックダウンの影響を受けて中国での売上が大幅に減少したことなどによる地域別売上構成の変化、原材料価格の上昇などが売上原価率を引き上げたためです。
- 販管費は、1,089億円、販管費比率は0.9ポイントの悪化です。特に、医療分野での売上成長に伴う費用やQARAをはじめ事業運営基盤強化のための費用などが増加しました。また、科学事業での分社化にあたりコーポレート機能強化に伴う人件費などの費用も加わり、額・率ともに増加しました。
- その他の損益などは、125億円です。その他の費用として科学事業の分社化に向けた費用約24億円を計上した一方、その他の収益として東京都内の土地の売却益約164億円を計上しました。
- 営業利益は408億円、前期比で132億円、48%増加しました。営業利益率は4.7ポイント改善し、19.1%でした。なお、経営戦略のマイルストーンである、その他の収益およびその他の費用を除いた調整後営業利益率は13.2%となりました。当期利益は249億円、前期比で62億円増加しました。EPSは20円、EPS成長率は34%となりました。
- 上海ロックダウン、半導体をはじめとした部品の世界的な供給不足、ウクライナにおける戦争等、厳しい事業環境下、患者さんや医療従事者を含む全てのステークホルダーの期待に応えるため、グローバルで社員一人ひとりが役割を果たすことにより、これらの影響の最小化に取り組みました。上海ロックダウンなど市場環境は厳しかったものの、期初に織り込み済みであり、第1四半期として概ね計画通りの進捗となりました。

2023年3月期 第1四半期実績 ②内視鏡事業



	FY2022	FY2023
(単位: 億円)	1Q	1Q
売上高	1,000	1,169
営業利益	227	248
その他の損益*	▲22	▲12
営業利益率 (為替影響調整後)	22.7%	21.3% (18.3%)

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

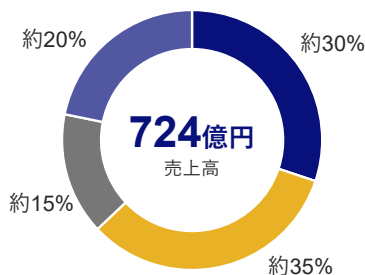
FY2023 vs FY2022 (4-6月) 売上高成長率

	円ベース		為替影響調整後
■ 消化器内視鏡	18%	▪ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い行動制限が実施された中国を除く全ての地域でプラス成長。「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加え、前世代のスコープなども増収に寄与。また、円安効果が大きい北米も増収に貢献	5%
■ 外科内視鏡	11%	▪ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い行動制限が実施された中国を除く全ての地域でプラス成長。外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が好調に推移した欧州で売上が増加。また、円安効果が大きい北米も増収に貢献	▲1%
■ 医療サービス	17%	▪ 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、全ての地域でプラス成長	5%
合計	17%		5%

(スライド6)

- 続いて、各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は1,169億円、17%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は260億円、調整後営業利益率は22.3%でした。
- 上海ロックダウンなどの影響があったものの、中国以外の地域での売上成長、新製品の貢献などを背景に増収となりました。
- 原材料費の価格上昇や中国での売上の減少による地域別売上構成の変化に伴う売上原価率の悪化に加えて、EVIS X1の拡販をはじめとした売上成長に伴う費用、運営基盤強化のための費用など、販管費の増加があったものの、増収により、増益となりました。
- 各分野の第1四半期の事業概況についてお話しします。
- 消化器内視鏡は、上海ロックダウンの影響を受けた中国を除く全ての地域でプラス成長となりました。「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加え、前世代のスコープなども増収に寄与しました。
- なお、「EVIS X1」シリーズの売上割合は、第1四半期の消化器内視鏡のサブセグメントの中で10%を超えています。また、導入済みの地域で「EVIS X1」の売上高を見ますと、前年同期比で約2倍に増加しており、好調に推移しています。
- 外科内視鏡は、中国を除く全ての地域でプラス成長となりました。外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が好調に推移した欧州で売上が増加しました。
- 医療サービスは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、全ての地域でプラス成長となりました。

2023年3月期 第1四半期実績 ③治療機器事業



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
			1Q	1Q
売上高			636	724
営業利益			141	134
その他の損益*			25	▲2
営業利益率 (為替影響調整後)			22.1%	18.5% (16.5%)

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 / **FY2023より、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品について、治療機器事業の泌尿器科に含めています。FY2022の実績も同様に組替え済

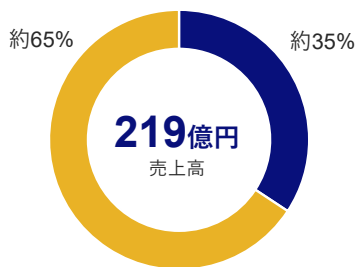
FY2023 vs FY2022 (4-6月)

売上高成長率	円ベース		為替影響調整後
■ 消化器科 (処置具)	14%	■ 全ての地域・製品群でプラス成長。特に、症例数が増加している北米と欧州で好調に推移。ERCP、サンプリング (生検鉗子等)、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大	5%
■ 泌尿器科**	18%	■ 症例数の回復が進み、特に北米と欧州で好調に推移。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功	4%
■ 呼吸器科	7%	■ 症例数が増加している欧州で好調に推移。また、円安効果が大きい北米も増収に貢献。EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具が好調に推移。	▲5%
■ その他の治療領域	12%	■ エネルギーデバイスが好調に推移。特に「THUNDERBEAT」の売上が寄与	2%
合計	14%		2%

(スライド7)

- 治療機器事業です。売上高は724億円、14%のプラス成長でした。調整後営業利益は136億円、調整後営業利益率は18.8%でした。
- 全ての分野、中国を除く全ての地域で成長が継続し増収となりました。事業活動の回復に伴い販管費が増加しましたが、調整後営業利益は増益です。なお、前期はその他収益にMedi-Tate社の段階取得に係る差益約28億円を計上しております。調整後営業利益と営業利益の間の大きな差異要因となっております。
- 各分野の第1四半期の事業概況についてお話しします。
- 消化器科処置具では、全ての地域・製品群でプラス成長となり、特に症例数が増加している北米、欧州、日本で好調に推移しました。膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP (Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術) 用の製品群、スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子などのサンプリング用の製品群や病変の切除に使用されるESD (Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術) ・EMR (Endoscopic Mucosal Resection/ 内視鏡的粘膜切除術) 用の製品群の売上が引き続き拡大しました。
- 泌尿器科においては、北米と欧州を中心に好調に推移しました。BPH (Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症) 用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System (ソルティブ スーパーパルスド レーザーシステム)」が引き続き牽引しました。なお、当期から、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品を、治療機器事業の泌尿器科に含めています。
- 呼吸器科では、症例数が増加している欧州で好調に推移しました。EBUS-TBNA(Endobronchial ultrasound-guided Transbronchial Needle Aspiration/ 超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具が好調に推移しました。
- その他の治療領域では、エネルギーデバイスが好調に推移しました。特に、「THUNDERBEAT」の売上が寄与しています。

2023年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



(単位: 億円)	FY2022	FY2023
		1Q 1Q
売上高	248	219
営業損益	19	▲16
その他の損益*	▲2	▲2
営業利益率 (為替影響調整後)	7.5%	-

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (4-6月)

売上高成長率	円ベース		為替影響調整後
■ ライフサイエンス	▲17%	<ul style="list-style-type: none"> 研究所、大学での予算執行が堅調に推移しているものの、半導体等の部品不足による納期の長期化の影響や中国において新型コロナウイルスの感染拡大に伴い行動制限が実施されたこともあり、減収 	▲26%
■ 産業	▲9%	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の設備投資状況は引き続き改善傾向が続いているものの、半導体等の部品不足による納期の長期化の影響や中国において新型コロナウイルスの感染拡大に伴い行動制限が実施されたこともあり、減収 	▲19%
合計	▲12%		▲21%

(スライド8)

- 続いて科学事業です。売上高は219億円、12%の減収でした。
- 半導体をはじめとした部品供給不足の影響で出荷に至らないケースが増加したことに加え、上海のロックダウンが減収要因です。なお、当社製品に対する需要は非常に高く、6月末時点の受注残高は過去最高の水準となっています。
- 当四半期は営業損失となりました。減収に加え、分社化によるコーポレート機能の強化に伴い、人件費を中心に費用が増加したことが要因です。
- 各分野の第1四半期の事業概況についてお話しします。
- ライフサイエンスでは、研究所、大学での予算執行は堅調に推移しているものの、半導体等の部品不足により顧客への納期が長期化していることや上海ロックダウンの影響もあり、減収となりました。
- 産業では、顧客の設備投資状況は引き続き改善傾向が続いており、特に北米では、主要市場である航空業界の市場環境が堅調に回復している工業用内視鏡が好調に推移したものの、ライフサイエンス同様、半導体等の部品不足により顧客への納期が長期化していることや上海ロックダウンの影響もあり、減収となりました。

財政状態計算書

☑ 為替の影響により、バランスシート全体が増加

(単位：億円)	2022年3月末	2022年6月末	増減額		2022年3月末	2022年6月末	増減額
流動資産	6,946	7,231	+285	流動負債	3,763	3,629	▲134
棚卸資産	1,674	1,869	+195	社債および借入金	523	536	+14
非流動資産	6,634	7,104	+470	非流動負債	4,704	4,885	+181
有形固定資産	2,471	2,593	+121	社債および借入金	3,338	3,412	+73
無形資産・その他	2,518	2,689	+171	資本	5,114	5,822	+708
のれん	1,645	1,822	+177	自己資本比率	37.6%	40.5%	+2.9pt
資産合計	13,580	14,335	+755	負債および資本合計	13,580	14,335	+755

(スライド9)

- 2022年6月末の財政状態です。
- 為替の影響により、バランスシート全体が増加しました。
- 棚卸資産増加は為替の影響に加え、上海ロックダウンおよび納品の長期化による影響が含まれています。
- 自己資本比率は前期末比で2.9ポイント増加し、40.5%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- FCF： 法人税の支払いなどにより、217億円のマイナス。特殊要因を考慮すると、調整後FCFは203億円のマイナス
 財務CF： 配当金支払を主要因に、217億円のマイナス

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)	2022年3月期	2023年3月期	増減
税引前利益	270	382	+113
営業キャッシュフロー	237	▲269	▲505
投資キャッシュフロー	▲335	52	+387
フリーキャッシュフロー	▲98	▲217	▲118
調整後フリーキャッシュフロー	203	▲203	▲406
財務キャッシュフロー	▲390	▲217	172
現金および現金同等物期末残高	1,687	2,864	+1,177

2022年3月期第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：社外転進支援制度の引当取崩	88億円
投資CF：事業・子会社等の取得	213億円

2023年3月期第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業再編に伴う税金支出	178億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	191億円
投資CF：エビデントの事業開始に伴う投資・一時的な資金負担	27億円

（スライド10）

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、269億円のマイナスとなりました。科学事業再編に伴う税金支出、日本において2021年11月の中間納付が発生せず5月に税金を一括納付したこと、および繰越欠損金が無くなったこと等による法人税の支払増加や、一部部材の調達難に伴い販売セットを組めないことによる部材の滞留などを背景とした運転資本の増加が主要因です。
- 投資キャッシュフローは、52億円のプラスとなりました。東京都内の土地売却による有形固定資産の売却による収入による増加が主要因です。
- フリーキャッシュフローは、217億円のマイナスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは203億円のマイナスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、217億円のマイナスとなりました。配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2022年6月末の現金および現金同等物残は1,177億円増の2,864億円となりました。

02 2023年3月期 通期業績見通し

(スライド11)

- 次に、2023年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

☑ 期初の見通しから為替を除いて据え置き。為替前提の見直しにより、売上高およびすべての段階利益を上方修正

- 1 売上高： 前回見通しから5%増の1兆190億円を見込む
- 2 営業利益： 経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
- 3 当期利益*： 過去最高の1,720億円、EPSは前期比50%増の135円となる見通し

(単位：億円)	2023年3月期 5月11日公表見通し	2023年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比
売上高	9,680	10,190	+510	+5%	0%
売上総利益 (売上総利益率)	6,465 (66.8%)	6,880 (67.5%)	+415	+6%	0%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理费率)	4,455 (46.0%)	4,610 (45.2%)	+155	+3%	▲1%
その他の収益および費用など	50	40	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	2,060 (21.3%)	2,310 (22.7%)	+250	+12%	0%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	2,020 (20.9%)	2,280 (22.4%)	+260	+13%	
税引前利益 (税引前利益率)	2,000 (20.7%)	2,250 (22.1%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	1,540 (15.9%)	1,720 (16.9%)			
EPS	121円	135円			

2023年3月期配当
年間配当16円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

(スライド12)

- 5月にお示した通期業績見通しには外部環境の変化による成長等の阻害要因を織り込んでいるとご説明しました。これらの要因も踏まえた上で、第1四半期までの実績は概ね計画通りに進捗しております。残り三四半期についても5月開示の計画を変更することなく、為替前提を変更し、2023年3月期の通期業績の見通しを上方修正しました。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル134円、1ユーロ140円としています。なお、詳細につきましては当資料の27ページ、Appendixに為替感応度の情報と共に纏めておりますのでご参照ください。
- 売上高は510億円上方修正し、1兆190億円を見込んでいます。
- 営業利益は250億円、上方修正しました。
- 将来に向けた戦略投資なども行いながら、引き続き費用の適正化を推進することで、調整後営業利益率は約22%となる見通しです。
- 営業利益は額・率ともに過去最高、当期利益も過去最高の1,720億円となる見通しです。また、EPSは135円、EPS成長率は50%となる見込みです。
- 2023年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、16円を予定しております。
- 半導体をはじめとした部品供給不足や上海ロックダウン余波、ウクライナにおける戦争など、5月に想定していたいくつかのリスクについても引き続き注視しながら、事業運営をしてまいります。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み
 2 科学： 2Q以降、部品不足の解消に伴い、製品の出荷を進めることで通期見通しの達成に繋げる

(単位：億円)		2023年3月期 5月11日公表見通し	2023年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	
内視鏡	売上高	5,090	1	5,360	+270	+5%	0%
	営業利益	1,560		1,740	+180	+12%	+1%
治療機器	売上高	3,100	1	3,270	+170	+5%	0%
	営業利益	695		755	+60	+9%	0%
科学	売上高	1,380	2	1,450	+70	+5%	0%
	営業利益	245		265	+20	+8%	▲6%
その他	売上高	110		110	-	-	▲2%
	営業損益	▲15		▲15	-	-	-
全社・消去	営業損益	▲425		▲435	▲10	▲10億円	▲3億円
連結合計	売上高	9,680		10,190	+510	+5%	0%
	営業利益	2,060		2,310	+250	+12%	0%

(スライド13)

- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業と治療機器事業を合わせた医療分野の売上高、営業利益ともに上方修正しました。また、引き続き過去最高となる見通しです。
- 科学事業も、売上高、営業利益ともに上方修正しました。第1四半期は、半導体等の部品不足や、上海ロックダウンなどにより、製造や出荷に影響を受けましたが、6月末時点の受注残は過去最高の水準であり、需要は旺盛です。第2四半期以降、部品不足の解消に伴い、受注残高が出荷増に繋がってきます。通期見通しは達成できると考えております。

03 治療機器事業の成長ストーリー

(スライド14)

- COOのNacho Abiaです。
- 治療機器事業の現在、そして今後の成長ドライバーについてご説明をさせていただきます。

当社が最大の力を発揮できる疾患に注力し、TSDは成長を目指す



差別化された製品、市場の専門知識、主要なステークホルダーと強い関係を有し、当社が最大の力を発揮できる疾患に注力することで医療水準の向上に貢献（例：重要なアンメットニーズへの対応、ゴールドスタンダードに代わる画期的なソリューションの導入）

（スライド15）

- まずTSDの注力領域の考え方についてご説明いたします。
- 私たちの戦略に基づき、TSDは当社が最大の力を発揮でき、医療水準の向上に貢献できる疾患に注力し、成長を持続していくことを目指しています。
- 具体的には、大腸がん、膵臓・胆道疾患、胃がんなどの消化器科疾患、前立腺肥大症、腎臓結石、膀胱がんなどの泌尿器科疾患、肺がんなどの呼吸器科疾患に注力しています。

消化器科処置具：市場での強力なポジションを活かし、医療水準の向上を図り且つ高い収益性を実現




3,000億～
3,500億円
 5% - 7%年平均成長率
消化器科
処置具市場

市場ポジション：第2位	強固な基盤	現在の成長を牽引	今後の成長ドライバー
成長を牽引する 代表製品群 	 ガイドワイヤ パピロトミーナイフ	 Dual Knife J™ (高周波ナイフ)	 EndoCuff™ シングルコース胆道鏡*
疾患/症例	ERCP ¹	ESD ²	大腸内視鏡検査 胆道内視鏡検査
消化器内視鏡におけるNo.1ポジションを活用			

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。
 **注：本スライドに掲載されている対象市場規模と成長率の予想の情報は、当社の調査によるもので、米国、欧州主要5か国（ドイツ、英国、イタリア、フランス、スペイン）、日本、中国に関するものです。市場規模は2021年3月31日時点のものです。呼吸器科はVeran Medical Technologies社買収の影響を含みます。成長予想は、2021年3月期を起点として、2022年3月期から2024年3月期までの予想です。以下の他のスライドに掲載されている市場データについても同様です。
¹ ERCP：内視鏡的逆行性胆道膵管造影術（Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography）
² ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic Submucosal Dissection）

(スライド16)

- 消化器科処置具は、3,000億円～3,500億円の市場規模、年平均成長率5～7%の市場です。この市場において、オリンパスは消化器科における強力な市場ポジションを継続し、医療水準を向上させ、将来の成長を促進する新しい製品を導入していきます。
- オリンパスは、消化器科処置具においてもNo.2プレーヤーとして非常に強力なポジションにあり、消化器内視鏡は引き続きNo.1ポジションを築き上げていきます。
- 消化器科処置具の2つの疾患領域をご紹介します。
- 一つ目は、将来の成長を見込む強固な基盤を確立している領域、二つ目は将来の成長機会がある領域です。
- まず一桁後半の成長を見込むERCPの領域です。この領域で当社が差別化を図っている製品は、ガイドワイヤとパピロトミーナイフの二つです。これらの製品はオリンパスの売上を牽引し、市場成長率を上回る1桁後半の売上成長を実現しています。
- 次に、ESDの領域をご紹介します。こちらも2桁成長で伸びている期待の高い領域です。当社は、ESD領域のパイオニア且つマーケットリーダーであり、代表的な製品であるDualKnife Jの売上は2桁成長で伸びています。また、将来の成長に向けて、欧米からアジア一部地域も含めて販売を拡大しているEndoCuff*は順調に成長しており、シングルコース胆道鏡*の開発も継続しています。
- このように当社は、消化器科処置具において、消化器科のさまざまな症例で使用する、市場をリードする製品を有しており、成長に向けてよいポジションにいると考えています。

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。

泌尿器科：手技プロセスと臨床結果を改善する 革新的なソリューションにより、高い収益性と力強い成長を実現



	市場ポジション：第2位	強固な基盤	現在の成長を牽引	今後の成長ドライバー
 2,800億～ 3,500億円 5% - 7%年平均成長率 泌尿器科市場	上部尿路 (腎臓、尿管、膀胱)  結石治療 1,800億円市場 (売上成長4%)	 尿管鏡 結石破碎装置	 Soltive SuperPulsed Laser System* および結石治療をサポートする消耗品	 開発中 シングルユース尿管鏡*
	下部尿路 (膀胱、前立腺)  BPH1 + 膀胱がん 1,250億円市場 (売上成長10%)	 膀胱内視鏡 経尿道的切除術をサポートする消耗品	 経尿道的切除術をサポートするバイポーラTUR システム (PLASMA+)*、バイポーラ電極	 iTind™* 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。
 † BPH：前立腺肥大症 (Benign Prostatic Hyperplasia)

(スライド17)

- 続いて泌尿器科です。泌尿器科は、2,800億円～3,500億円の市場規模、年平均成長率5～7%の市場です。
- 泌尿器科は上部尿路と下部尿路の領域に分けることができますが、結石治療が含まれる上部尿路は1,800億円の市場規模、年平均4%で成長している市場です。
- 当社はこの領域で尿管鏡や結石破碎装置など幅広いポートフォリオを保有しており、1桁台の堅調な成長を続ける強固な売上基盤となっています。
- 特に欧米、アジア一部地域で発売した新製品の「Soltive SuperPulsed Laser System*」と、結石治療用処置具は2桁成長で伸びており、この領域で高い成長を実現しています。
- また、今後の成長ドライバーとして、シングルユース尿管鏡*の開発も進めています。
- もう一つの下部尿路の市場は、BPH（前立腺肥大症）と膀胱がんの2つの疾患で形成されており、1,250億円の市場規模、年平均10%で成長しています。
- この領域でも、当社は長年に渡って強みを発揮しており、膀胱内視鏡やBPHの切除用デバイスが多くの売上を創出しています。特に、「PLASMA+*」とそれに付随するバイポーラ電極が高い成長を実現しています。
- また、今後の成長に向けて、臨床的な評価が高い低侵襲治療デバイス「iTind*」の市場開拓も進めています。

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。

呼吸器科：収益性の高い超音波気管支鏡と吸引生検針により、肺がんのステージングと診断において、市場をリードするソリューションを提供



600億～
800億円
6% - 7%
年平均成長率
呼吸器科市場

市場ポジション：第2位	強固な基盤	現在の成長を牽引	今後の成長ドライバー
<p>肺がん ステージング + 診断</p> <p>症例数成長率 1桁成長 がんによる死亡者数1位</p>	<p>EVIS X1含む 気管支鏡用プラットフォーム</p>	<p>EBUS：超音波気管支鏡と ViziShot™ EBUS-TBNA¹吸引生検針</p>	<p>SPIN™電磁ナビゲーションシステム* シングルユース気管支鏡の幅広いラインアップ</p>

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。
¹ Endobronchial ultrasound transbronchial needle aspiration

(スライド18)

- 呼吸器領域は、肺がんの診断とステージングという高成長分野における価値提供により、力強い成長を実現するための良いポジションにあります。
- オリンパスは、リユース気管支鏡市場のグローバルリーダーであり、肺疾患の診断と治療のための気管支鏡とデバイスの市場をリードするポートフォリオを有しています。このポートフォリオに加え、新しい気管支鏡プラットフォーム「EVIS X1」が引き続き売上成長を牽引しています。
- また、オリンパスは、肺がんのステージングと診断という成長分野でも優位なポジションを占めています。肺がんは、世界におけるがんの死因の1位となっています。オリンパスは、2004年に世界で初めてがんの疑いのある組織を直接採取するための超音波気管支鏡と、その手技で一緒に使う吸引生検針を発売して以来、ステージングと診断において、パイオニアかつリーダーであり続けています。超音波気管支鏡とEBUS-TBNA吸引生検針は、2桁成長を実現しています。
- 今後の成長に向けて、Veran社の買収によって獲得した電磁波ナビゲーションプラットフォーム*と、シングルユース気管支鏡*の幅広いポートフォリオで市場を開拓しています。
- オリンパスは、呼吸器の臨床、特に肺がんの診断とステージングという成長分野でリーダーシップを発揮しており、現在及び将来の成長を支える重要な市場機会を獲得することができると思っています。
- 本日で説明した内容が、当社のTSDのポテンシャルを明確に理解するために有用な情報となりましたら幸いです。ありがとうございました。

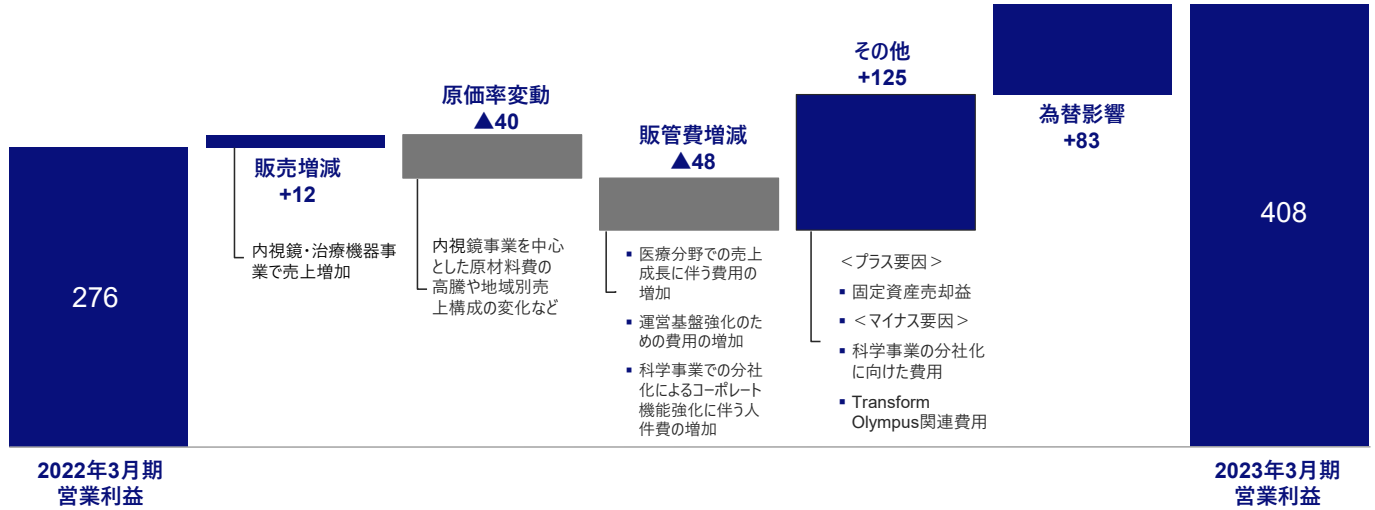
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております。

OLYMPUS

参考資料

2023年3月期 第1四半期実績 連結営業利益増減要因

第1四半期実績（4-6月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

2023年3月期 第1四半期実績 セグメント別概況

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,000	1,169	+17%	+5%
	営業利益	227	248	+10%	▲16%
治療機器	売上高	636	724	+14%	+2%
	営業利益	141	134	▲5%	▲24%
科学	売上高	248	219	▲12%	▲21%
	営業損益	19	▲16	▲35億円	▲39億円
その他	売上高	30	29	▲4%	▲6%
	営業損益	▲6	▲3	+3億円	+3億円
全社・消去	営業損益	▲104	45	+149億円	+153億円
連結合計	売上高	1,915	2,141	+12%	0%
	営業利益	276	408	+48%	+18%

連結キャッシュフロー 増減要因



プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2022年8月9日時点)



2023年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2023年3月期に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入を準備し、収益性を改善

16%

2023年3月期
売上高成長率¹



現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">■ EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)■ EVIS EXERA III (米国、欧州)■ EVIS LUCERA ELITE (中国) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">■ VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (欧州、日本)■ VISERA ELITE II 2D (米国)■ VISERA ELITE (中国)■ VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">■ EVIS X1 (米国)■ 次世代超音波内視鏡システム (欧州、日本) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">■ VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)■ VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (中国)■ 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">■ EVIS X1 (中国)■ シングルユース十二指腸内視鏡■ 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">■ 次世代外科内視鏡システム (米国)

¹ 円ベースの成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2022年8月9日時点)



2023年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 気管支鏡における次世代プラットフォーム「EVIS X1」を米国で発売
- Veran Medical technologies社の統合による肺がん分野におけるソリューション拡大を通じて成長を加速

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 4製品 (米国)
- 4製品 (欧州)
- 4製品 (日本)
- 3製品 (中国)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

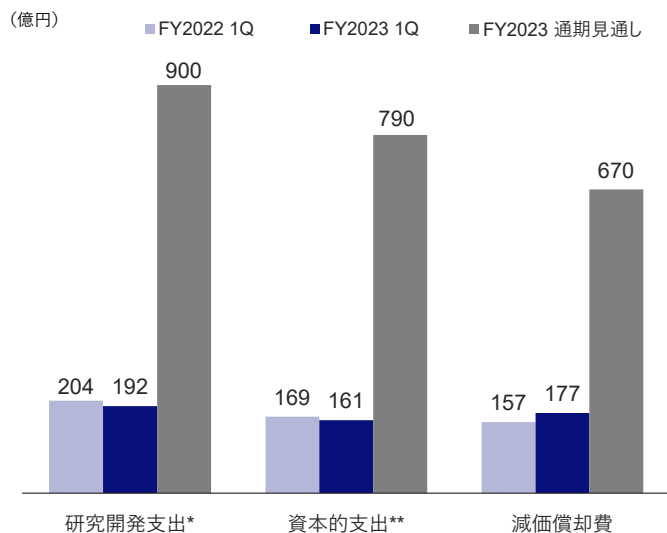
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
*1 円ベースの成長率

19%

2023年3月期 売上高成長率¹

投資など

第1四半期実績（4-6月）および通期見通し



(単位：億円)	FY2022	FY2023
研究開発支出* (a)	204	192
開発費資産化 (b)	38	24
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	166	168

(単位：億円)	FY2022	FY2023
償却費	22	23
	2022年3月末	2022年6月末
開発資産残高	620	634

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。／ **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。
(FY2022 1Q：38億円、FY2023 1Q：50億円、FY2023 見通し：70億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2022 1Q	FY2023 1Q	前回見通し	FY2023 最新見通し
円/USドル	109.49	129.57	123	134
円/Euro	131.96	138.12	135	140
円/CNY	16.96	19.58	19	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	30	15
ユーロ（1円あたり）	18	8
人民元（1円あたり）	70	48